

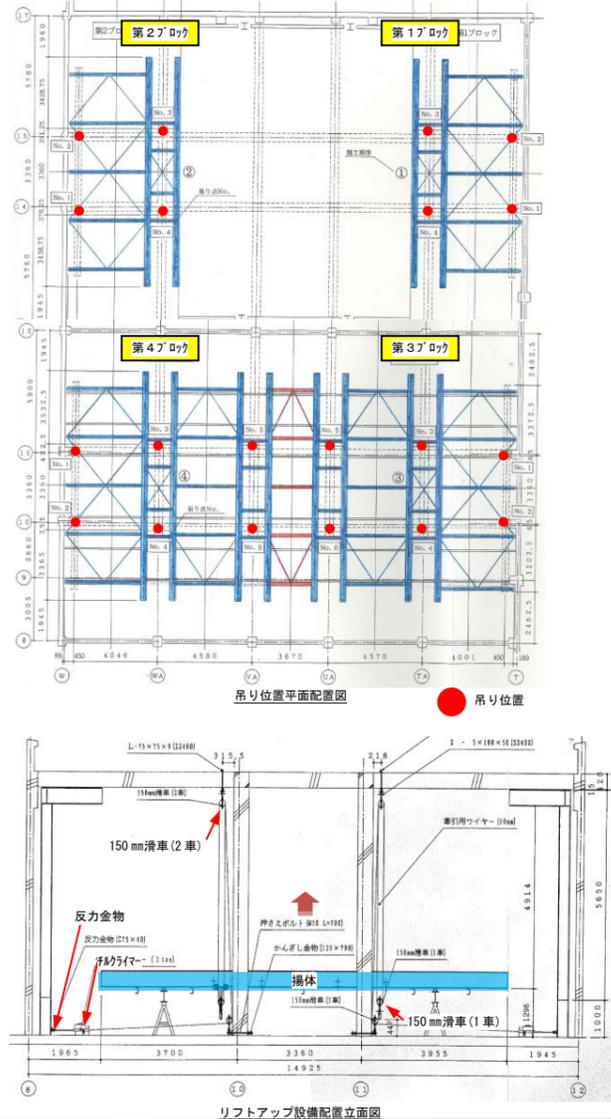
□ 建物概要



建物名称	長野オリンピック国際放送センター (IBC)
所在地	長野県長野市大字若里字前河原桑ノ本島
建築主	(財)長野オリンピック冬季競技大会組織委員会 (NAOC)
設計・監理・施工	国際放送センター建設計画企業体・(株)竹中工務店 JV
建物用途	国際放送センター
建物階数、高さ	平屋・一部4階
建築面積	24,806 m ²
延床面積	26,325 m ²
構造種別	既存 RC 造 (昭和 13 年築) 既存鉄骨造 (昭和 57 年築)
工期	1996 年 9 月～1997 年 8 月
工法	リフトアップ工法
リフトアップ重量	総重量 30.4ton
鉄骨寸法/数量	総面積 233.7 m ²
リフトアップ揚程	5041 mm
リフトアップ装置	チルクライマー (1t ダブル掛け)
計測システム	変位計 (ワイヤー変位計)
備考	

□ リフトアップ工法

- 反力金物セット
- 揚体金物セット
- 揚荷装置セット
- ワイヤー仕込み
- ワイヤー仮緊張
- 計測装置セット
- 各部点検作業
- ワイヤー緊張
- 地組みレベル計測
- 地切り
- レベル調整
- リフトアップ
- 上昇量 4400 mm で一旦停止
- 大梁進入部がランス確認
- リフトアップ
- 定着 30 mm 手前で一旦停止
- 仕上げ工事着手
- リフトアップフロー

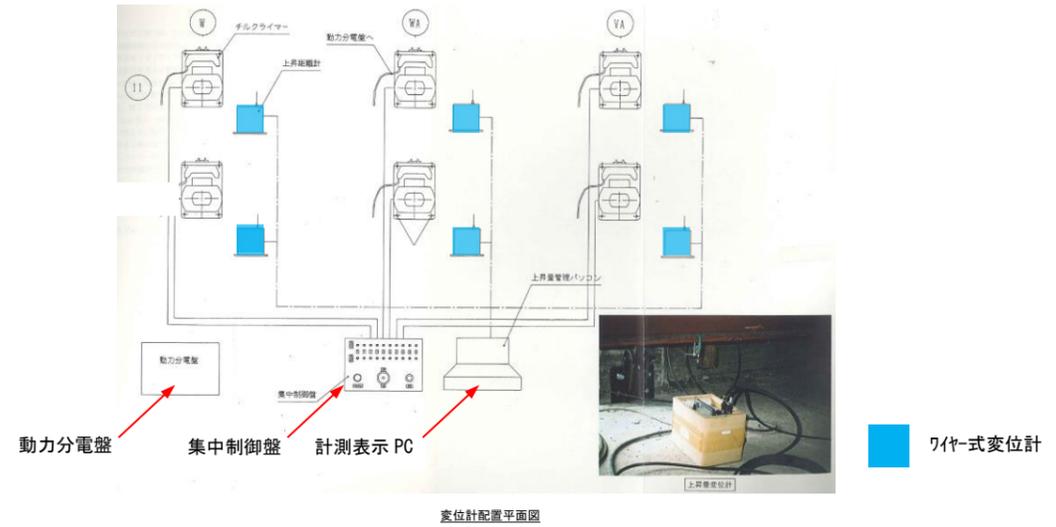


当リフトアップ工事では、第1・2ブロックでは4台、第3・4ブロックでは6台と複数のチルクライマーを使用しリフトアップを行うため、チルクライマーが同調せずに作動し、上昇量に変位差が生じた場合、揚体各部に悪影響を与えるとともに偏荷重が生じ、大変危険である。そこで、1本のレバーで複数のチルクライマーを同調して操作する事が可能な集中制御盤を使用することにより、揚体を地組形状を維持したまま定着位置までリフトアップする事を可能とした。また、リフトアップ中において上昇量の変位が生じた場合には個々に調整を行い揚体各部に悪影響を与えないようにした。



□ 計測管理

リフトアップする揚体の上昇量に変位差が生じないように、複数のチルクライマーを集中制御装置により同調させかつ、各吊り点近傍に上昇量変位計を取り付け、パソコンを通じ CRT 表示させリフトアップ中の揚体の上昇量管理を行った。



□ 施工状況写真

